

いもと のういち
井本農一



周南市
(1913～1998)

井本農一は、大正二年千葉県成田市に、小説家青木健作の長男として生まれる。東京大学卒業後、文部省勤務、旧制山口高等学校教授などを経て、昭和二十年東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）教授になり、三十三年余在職。その間多数の著書・論文があり、学界に貴重な貢献をする。芭蕉関係の著書が多い中、俳論集『俳文芸の論』では、「俳句の本質はイローニッシュユ（皮肉・風刺）な対象の把握の仕方にある」と問題提起し、当時の俳壇に大きな反響を呼んだ。お茶の水女子大学退官後は、実践女子大学学長の要職に就き、その後は、好きな句作に励み、時には孤独な旅に出た。

（桑原伸一）

【主な著作】

評論集『俳文芸の論』（明治書院、昭和28年）

随筆集『流水抄』（角川書店、昭和55年）

句集『蓮の母 井本農一句集』（永田書房、平成11年）